

農作物技術情報 第3号の要約

平成23年 5月25日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 移植作業は、やや遅れからほぼ平年並み。各地でほぼ適期内に作業が終わる見込み。</p> <p>低温対策: 低温時は深水にして保温に努める。</p> <p>技術対策</p> <ul style="list-style-type: none">○ 好天時は浅水管理で分けつ発生を促進を。○ 水田除草剤は適期に十分な湛水深での処理を。○ 補植用取置苗はいもち病が発生しやすいので、圃場内に放置せず直ちに処分する。○ 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の孵化盛期に合わせた地域一斉での草刈りの実施を。
畑作物	<p>生育状況: 小麦の生育は全般的に平年よりも5日前後遅れている。県南部は開花間近。</p> <p>低温対策: 小麦赤かび病の防除適期は開花期だが、低温が続くと開花が遅れることが予想されるので防除適期を逃さないよう注意。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦: 収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制を整える。 大豆: 排水対策・耕起・碎土などを丁寧に行い、土壌条件を整える。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類は、きゅうり、トマトで出荷開始が例年よりやや遅れ、ピーマンは定植時期により生育に差がみられる。 露地果菜類は、育苗期間中の天候不順の影響により苗配布、圃場準備、定植に遅れがみられる。 雨よけほうれんそう、レタスは生育遅れの圃場あり。キャベツは生育順調。</p> <p>低温対策: 明け方の冷え込みが予想されるときは夕方早めにハウスを閉め、必要に応じて補助暖房等を活用する。</p> <p>技術対策</p> <ul style="list-style-type: none">○ 施設果菜類: 温湿度管理を徹底し、生育に応じた早めの作業で草勢維持に努め、病害虫の初期防除を徹底する。○ 露地果菜類: 活着促進と初期生育確保のため、土壌水分・地温確保と、定植後の保温対策に努める。○ 雨よけほうれんそう: ハウスの温度、湿度管理を適切に行い、高温や過湿による病害発生や生育不良を防ぐ。コナダニ類の防除対策を徹底する。○ 露地葉菜類: 害虫の発生が見られるため、早期防除を実施する。
花き	<p>生育状況: りんどう、小ぎくとも平年並みから若干の遅れ。</p> <p>低温対策: ハウスは夕方早めに閉め、夜間の保温に努める。また、定植は低温日を避けるようにする。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう: 定植準備は天候をみながら計画的に進め、苗が老化しないうちに適期に定植する。 小ぎく: 定植、整枝作業を各品種の生育にあわせて順次進める。</p>
果樹	<p>生育状況: りんご開花は平年より4～5日遅く、概ね昨年並み。ぶどうの展葉は平年より3日の遅れ。</p> <p>技術対策</p> <p>りんご: 開花の遅れにより小玉果が懸念されるため、早めの摘果を! ぶどう: 開花期前後の管理を計画的に進める。</p>
畜産	<p>牧草の放射性物質モニタリング検査結果</p> <p>滝沢村東部エリアを除く地域の利用自粛等の要請が解除となり、牧草の利用が可能となっている。</p> <p>技術対策</p> <p>牧草: 適期刈り取りを行うとともに、調製方式に応じた水分含量となるように努める。 飼料用トウモロコシ: 雑草の繁茂を防ぐため、生育期処理は適切に除草剤を選択し、適期に実施を。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

- 農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。
- 農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。
- 春の農作業安全月間実施中(4月15日～6月15日)「農作業 無事故でつなぐ 明るい未来」

次号は平成23年6月30日発行の予定です

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 平成23年 5月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

田植え直後～分けつ期の管理のポイント

- ◆ 低温時は深水にして保温に努めましょう。
- ◆ 好天時は浅水管理で分けつの発生を促進します。
- ◆ 目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施しましょう。
- ◆ 水田除草剤は適期に十分な湛水深で処理しましょう。
- ◆ 補植用取置苗はいもち病が発生しやすいので、圃場内に放置せず直ちに処分しましょう。
- ◆ 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の孵化盛期に合わせて地域一斉の草刈りを実施します。
- ◆ 異品種の混入を防止するため、株間や条間に生育しているイネは抜き取ってください。
- ◆ 農薬使用基準の厳守と飛散防止、農作業の安全に十分留意してください。

1 生育概況

田植えの盛期(50%終了)は5月18日、終期(90%終了)は5月23日とやや遅れ～平年並となっています。各地域で概ね適期内に作業が終わる見込みです。
各地域の田植えの最盛期以降は好天に経過しており、活着は概ね良好です。

表1 県内農業地帯別田植状況(各農業改良普及センター調べ) 5/20現在

地帯名	田植え時期(月/日)											
	本年(月/日)			平年			平年差(日)			前年		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	(5/18)	(5/22)	—	5/15	5/18	5/23	(3)	(4)	—	5/17	5/21	5/25
北上川下流	(5/12)	(5/16)	(5/22)	5/10	5/13	5/19	(2)	(3)	(3)	5/12	5/16	5/22
東部	(5/13)	(5/16)	(5/23)	5/10	5/14	5/20	(3)	(2)	(3)	5/12	5/16	5/23
北部	(5/20)	(5/22)	—	5/18	5/22	5/26	(2)	0	—	5/21	5/23	5/28
県全体	(5/14)	(5/18)	(5/23)	5/11	5/15	5/20	(3)	(3)	(3)	5/13	5/18	5/23

注) 1, 平年値は10か年(平成13～22年)の平均値, 始期: 10%終了、盛期: 50%終了、終期: 90%終了
2, 括弧内の数値は未確定市町村があるため推定値。

表2 各地の田植時における半旬毎の平均気温

市町村	5月第3半旬		5月第4半旬	
	本年	平年差	本年	平年差
二戸	12.1	-1.0	14.8	1.0
久慈	12.1	0.2	14.6	2.1
紫波	13.7	0.6	15.9	2.0
北上	14.7	0.7	17.0	2.3
奥州	15.0	1.1	17.2	2.5
一関	15.2	1.0	17.4	2.5
大船渡	14.4	1.1	16.8	2.9

注) 第3半旬は10日～15日、第4半旬は16日～20日を表す。

2 水管理（分けつの促進と中干しの実施）

仙台管区気象台の3か月予報によれば（4月25日発表）、6月の気温は平年並みまたは高く、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。好天時は浅水管理で分けつの発生を促進してください。

（1）分けつの促進

好天時は浅水とし、かけ流しをさけて水田水温や地温を高めて分けつの発生を促進してください。

一方、最高気温が15℃以下となるような低温時には、葉先が出る程度の深水として水稻を低温から保護してください。特に、県北部など田植えを終えて間もないところでは、水稻の活着・初期生育を促すよう、きめ細かな水管理につとめてください。

冷水のかかる水田では、ポリチューブなどを利用し、積極的に水温の上昇をはかりましょう。

生わら施用田では、気温の上昇とともに土中のわらが分解し、酸素不足となります。水持ちの良い水田では一時落水し、新しい水を入れ換えて分解過程生成物を除去する。雑草防除をかねて中耕し、ガス抜きをするなどの対策を行います。

（2）中干しの実施

目標とする茎数（目標とする穂数とほぼ同数）を確保したあとは、以下により中干しを実施しましょう。中干しを行うことにより、土壌の還元化を和らげ、根の伸長促進と健全化をはかるとともに、無効分けつの発生を抑制します。

（ア）中干しの期間はおよそ7～10日くらいとし、田面に小さな亀裂が生じ田面を軽く踏んで足跡がつく程度を目安に行う。

（イ）かん排水を容易にするため、中干しと同時に作溝を行うのが望ましい。

（ウ）中干し後、一度に深水にすると酸素欠乏になり根に障害が出ることもあるので、中干し直後は間断かんがいと、その後常時湛水とする。その後は異常低温でない限り、幼穂形成期までは間断かんがいととする。

3 効果的な除草剤の使用

ノビエやホタルイなどの水田雑草はほぼ平年並みに発生が始まっています。

これから除草剤の散布を行うところでは、除草剤の効果を十分に発揮させるため、以下の点に留意して下さい。

（1）適期処理：雑草の葉齢を見極め、適期に処理すること。

（2）水管理：処理後3～4日間は水の移動をしないこと（止水期間は1週間程度）、この間に田面が露出しないことが重要となる。そのため、十分な湛水深を確保した上で処理すること。

（3）使用する農薬のラベルを必ず確認して、使用基準を遵守すること。



写真1 2葉期のノビエ



写真2 2葉期のホタルイ

（通常の初中期一発処理剤はこの頃までに処理すれば十分な効果が得られます。）

4 病害虫防除対策

(1) 葉いもち（補植用取置苗の早期処分の徹底）

補植用の取置き苗はいもち病の伝染源となります。圃場内に放置している場合には、遅くとも6月上旬までに必ず処分してください。

畦畔にあげておいたままのものや、裏返しにされた苗でも条件によっては伝染源となり得るので、必ず土の中に埋め込むなどして処分してください。

処分する時によく観察していもち病が発病していないか確認し、発病していた場合は周囲の本田に伝染していないか注意してください。

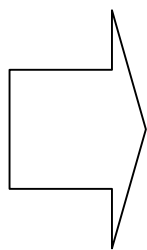
葉いもち予防剤の施用時期は6月20日～25日が適期です。例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用しましょう。

なお、ストロビルリン系薬剤（嵐剤、オリブライト剤）は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田で使用しないでください。

葉いもち予防剤を施用する前や、箱施用剤を使用した場合も圃場をよく観察して、発生が見られた場合には、茎葉散布を検討してください。



取置苗を放置すると



いもち病の伝染源となる

写真3 補植用取置苗はいもち病の伝染源

(2) ばか苗病

発生がみられた場合には、株ごと抜き取って処分してください。特に、水稻の採種圃周辺の圃場でばか苗病が発生すると、採種圃の水稻に感染する恐れがありますので注意してください。

(3) 斑点米カメムシ対策（発生源対策）

斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などを吸汁して繁殖します。水稻が出穂する前は、これらの植物が生育している畦畔や休耕田等で増殖しますので、カメムシ類の増殖を防ぐため、発生源となる畦畔や休耕田等のイネ科牧草・雑草は出穂開花する前に刈り取ることが重要となります。

アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的であることが明らかとなっています（県農業研究センター平成19年度研究成果）。

アカスジカスミカメにより斑点米の被害が問題となっている地域では、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを地域一斉に実施してください。

なお、県内各地のアカスジカスミカメ越冬世代幼虫の孵化盛期については、県病害虫防除所発行の病害虫防除速報No.2 水稻編-1（平成23年5月20日発行）を参考にしてください。



写真4 畦畔に群生するイタリアンライグラス 写真5 斑点米の発生原因となるアカシガミカ
(イタリアンライグラスはカメシの増殖源となる)

5 異品種の混入防止

異品種が混入した米を出荷すると、産地の信頼を損ねることになります。

株間や条間などに生育している素性のはっきりしないような水稻があった場合には抜き取るなど、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

6 農薬の安全使用

食品衛生法により、基準値を超えた農薬が残留した農作物の流通は禁止されます。農薬はラベル等の注意書きを良く読んで正しく使い、周辺作物へのドリフト（農薬飛散）に注意しましょう。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 平成23年 5月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

小麦： 小麦の生育は全般的に平年よりも5日前後遅れています。まもなく開花期を迎え、赤かび病の防除適期になります。低温が続いた場合、開花が遅れることが予想されますので、防除適期を逃さないよう注意しましょう。

収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で望みましょう。

大豆： 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。

1 小麦

(1) 赤かび病の防除

赤かび病の薬剤防除は、品種や天候によって2回目、3回目の散布が必要になります。下表を参考に防除を行いましょう。

ア 赤かび病防除の考え方

品種	開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7～10日後	2回目散布の 7～10日後
ナンブコムギ	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)	—
ゆきちから ネバリゴシ コユキコムギ	◎ (必須)	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)

イ 穂が緑色のうちには場を見回り、赤かび病にかかっているものを抜き取りましょう。

ウ 多発した場合は、刈り取りを別とし、健全粒に赤かび粒が混入しないようにしましょう。

(2) 乾燥・調製施設との連携

ア 小麦の収穫時期は梅雨と重なるため、実際の刈取り期間はかなり短くなります。また、刈取時に雨の日が続く、刈取りが遅れると穂発芽や赤かび粒も発生しやすくなります。適期内に収穫できるよう機械等の点検整備をあらかじめ行いましょう。

イ 施設を利用して乾燥・調製を行う場合は、施設側との連携を深め、計画的に収穫作業ができるよう、収穫・受け入れ体制を今から十分に整えておきましょう。

2 大豆

(1) 排水対策の実施

ア 排水不良は発芽不良を誘発するだけでなく、根粒の着生を抑制します。

イ 播種前に弾丸暗きょやサブソイラ等を用いて排水対策を講じましょう。特に転作田では必ず畦

畔の内側に 40～50cm の溝（額縁明きよ）を作り、ほ場水尻の排水口につなぎましょう。

（２）耕起・砕土・整地

ア 砕土をできるだけ丁寧に行いましょう。仕上がりが不均一だと、除草剤の効果が低下したり、薬害の誘発、播種精度の低下に伴う発芽不良などの原因となります。

イ 砕土はよく乾いたほ場から行いましょう。

ウ 耕うん・砕土後（特にロータリ耕後）は、土壌が水分を含みやすく、乾きにくくなります。播種スケジュールと天候の動きをみながら、柔軟に作業日程を立てましょう。

エ 耕うん後に降雨があると、土壌条件が整わず播種が遅れることがあります。オペレータが確保できれば、砕土作業を追いかけるように、播種、除草剤散布を同日に行うのが理想的です。

（３）播種作業・・・栽植密度を確保するため次の点に留意を

ア 播種適期

概ね表 1 のとおりです。

表 1 大豆の品種別地帯別播種適期

早晚生	品 種 名	県北部	県中部	県南部
極早生	ユキホマレ	6/ 5～6/25	6/20～7/10	7/ 1～7/20
晩生	ナンブシロメ・スズカリ	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
晩生	リュウホウ	—	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
中生	すずほのか（標播） （晩播）	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
		—	6/ 1～6/5	6/16～6/20
晩生	コスズ	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
中生	南部黒平	5/20～5/31	5/15～5/31	6/ 1～6/20
晩生	青丸くん	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
極晩生	岩手みどり、ミヤギシロメ	—	—	5/20～6/ 5

播種作業は適期内に行いましょう。ただし、圃場が滞水するような条件や播種前後に大雨が予想されるときは作業を控えましょう。

逆に乾燥しすぎた土壌でも発芽障害となるので、しばらく降雨が見込めない場合には播種深をやや深くしましょう。

イ 播種様式

畦幅（条間）は、その後管理する機械に合わせて設定してください。品種別の栽植密度は表 2 のとおりです。

表 2 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ユキホマレ	ナンブシロメ	リュウホウ	スズカリ	青丸くん
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万2千	1万～1万2千
畦間×株間(cm) *	70×14～9 30×30～22	70×30～24	70×40～20	70×30～24	70×30～24
播種量(kg/10a)	6～9	2.5～3	2.5～5	3～3.5	2.5～3

*) 畦間を 70 cm、1 株 2 本立てとした場合を示した。

「ユキホマレ」の麦後栽培では、畦間 30 cm 前後の狭畦密植とする。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する（晩播ほど密植とする）。

ウ 播種量

同じ栽植密度でも種子の大きさにより播種量が変わりますので、適正な栽植密度となるよう、種子の大きさに応じて播種量を決めましょう。主な品種の種子の大きさは次の通りです。

＜参考＞ 23年度播種用種子

品種	区分	百粒重 (g/100粒)	必要種子量 (kg/10a)
ナンブシロメ	中粒	26.0	3.1kg 程度
ナンブシロメ	小粒	20.3	2.4kg 程度
リュウホウ	大粒	33.2	4.0kg 程度
リュウホウ	小粒	27.6	3.3kg 程度
スズカリ	大粒	31.9	3.8kg 程度
コスズ すずほのか	小粒	10.2	1.2kg 程度
	極小粒	8.2	1.0kg 程度

※ ナンブシロメ・スズカリの適正な栽植密度は、10aあたり10,000～12,000本、リュウホウの適正な栽植密度は10aあたり7,000～15,000本です。

※ 必要種子量は、10a あたり12,000本、出芽率100%の場合で計算していますので、出芽率が80%程度となっても、本数は10,000本近く確保できる種子量です。

エ 病害虫防除・・・種子消毒を徹底

紫斑病やタネバエ防除のため、ECP・チウラム粉剤（対象：タネバエ）やチウラム水和剤（対象：紫斑病・タネバエ）等で種子消毒をします。

「青丸くん」については褐斑粒発生防止のため、ウィルスを媒介するアブラムシを防除してください。アブラムシ類の防除は、土壌施用殺虫剤および本葉第1葉～2葉展開期頃の茎葉散布を行います。種子にチアメトキサム水和剤を塗抹処理した場合は、エチルチオメトン粒剤やジメトエート粒剤などの播種時の土壌施用を省略できます。

(4) 雑草防除・・・丁寧な砕土で除草剤の効果安定化を

ア 土壌処理剤は播種後すぐに散布できるよう作業を組みましょう。

また、土壌が乾いている時は、希釈水量も上限量で均一に散布し、処理層の形成に努めましょう。

イ 砕土が不十分な状態で土壌処理剤を使用すると効果が低下したり、薬害の発生するおそれがあります。砕土を丁寧に行い、土壌処理剤と中耕を適切に組み合わせることが大切です。

ウ 覆土が浅すぎる場合も薬害の生じる場合があります。覆土は2～3cm確保しましょう。

(5) 中耕培土・・・中耕培土で生育の安定化を

中耕培土には次の効果があり、生育を安定化するのに役立ちます。

ア 雑草防除

イ 倒伏防止

ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる

エ 発根を促進し、根群を発達させる

オ 土壌の排水を良好にする

中耕培土の時期は大豆3葉期が一般的ですが、雑草の発生時期に応じて（除草剤の効果がなくなってきたら）、雑草が小さいうちに行うことが重要です。培土の高さは、コンバイン収穫の場合はあまり高くしないこと（おおむね1葉節以下）に留意します。また、汚損粒の発生を防ぐため、培土の高さは一定となるようにします。

春の農作業安全月間実施中！

[4月15日]
[~6月15日]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 平成23年 5月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 施設果菜類 温度管理の徹底、草勢維持、病虫害防除に努めましょう！
- ◆ 露地果菜類 活着促進のため、土壌水分と地温を確保しましょう！
- ◆ 雨よけほうれんそう ハウスの換気に注意して適切なかん水を心がけましょう！
- ◆ 露地葉菜類 害虫の発生状況に応じた早めの防除を！
- ◆ 明け方の冷え込みが予想されるときは夕方早めにハウスを閉め、必要に応じて補助暖房等を活用しましょう！

1 生育概況

- (1) 施設果菜類は、半促成きゅうり、半促成トマトとも収穫が始まっていますが、低温経過の影響により出荷開始時期が例年より遅れており、半促成きゅうりでは節間が短いほか雌花が多く草勢低下が懸念されます。
また、雨よけ施設を利用したトマト・ミニトマトでは生育が例年より遅れており、ピーマンでは定植時期の違いにより生育差がみられます。
- (2) 簡易雨よけトマト、露地きゅうり、露地ピーマンは例年と同様5月下旬から定植が始まっているところもありますが、育苗期間中の低温や不安定な天候の影響により、苗配布や圃場準備が遅れ、定植が遅れているところもみられます。
- (3) 雨よけほうれんそうの生育は回復してきていますが、震災や強風の影響による遅れが残っている地域があります。ハウレンソウケナガコナダニによる被害が散見されています。
- (4) 県中部のレタスは概ね順調に生育していますが、県北部では定植の遅れによる影響が見られます。キャベツは定植作業、生育とも概ね順調です。
- (5) 露地普通作型のアスパラガスは県北部で収穫が始まっており、立茎栽培では春芽の収穫が間もなく終了します。ねぎは定植が順調に進み、4月定植では1回目の土入れが終了しています。

2 技術対策

(1) 圃場の排水対策とかん水

例年、排水不良が原因と思われる生育不良が見受けられます。水田転作の場合は、水路等の点検整備を行い、ほ場外からの水の侵入防止に努めるとともに降雨後の排水を促すための明きよと排水口の設置、高うね栽培とします。長時間滞水するなど排水不良が十分改善されない場合は、耕盤破碎や補助暗きよの設置も検討して下さい。

排水良好なほ場では、かん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善などの効果が現れます。県内各地で簡易点滴かん水装置の導入も進んでいますので、かん水設備の設置・導入をぜひ検討してください。

(2) 施設果菜類の管理について

これまで、生育遅れや徒長、葉焼けなどの生理障害が見られていますので、前号を参照して温度管理の徹底に努めてください。

今後、気温の上昇とともに収穫量が増加してきます。長期安定生産に向けて、追肥やかん水、整枝、誘引などの作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。特に雨よけトマトでは5～6段以降急激に草勢を低下させるケースが多いことから、草勢低下(生長点が細くなるなど)の兆候が見える前から早めの追肥実施、低段の着果制限を行うなど、草勢維持管理を徹底しましょう。

また、近年6月の好天時に尻腐れ果の多発や、急激な気象変動による生長点の萎れが発生する傾向にあります。着果量も増える時期となりますので、生育と天候に見合ったかん水をしっかり行うようにして下さい。

害虫では、アブラムシ類やアザミウマ類、ハモグリバエ類などの害虫の発生が目立ってきますので、初期防除に努めてください。

病害では、日照不足が続くと、灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなります。特に、半促成作型では過繁茂になりやすい時期で、低温時にハウスを密閉すると、湿度が一層高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、換気を徹底し風通しを良くするとともに、予防散布を心掛けてください。また、細菌病、ウイルス病の感染拡大を防ぐため、わき芽取りは傷口が乾きやすい晴天時に行いましょう。

(3) 露地果菜類の定植と定植後の管理

ア きゅうり

生育初期に十分に根群を発達させることが、長期安定生産を実現する重要なポイントです。

初期生育を良好にするためには、防風対策をしっかりと行うとともに、土壤水分が適湿な状態でマルチを張り、15℃以上の地温を確保してから定植するようにしましょう。

定植作業は晴天日を選んで行い、深植えは避け、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水するとともに、定植後天候不順の場合は液肥を薄めて株元に施用するなど活着を促すようにします。また、定植直後の防風、保温対策として、ポリキャップなどの被覆資材の利用が効果的です。

定植後、本葉10枚ころまでに主枝の7節以下の雌花と側枝は早めに除去し、着果させる節位は必ず30cm以上で8～10節からとしますが、節間が短い場合や生長点が小さい場合は、着果させる節位を2～3節上げ、高さ35～40cmまでの雌花や側枝は除去し、草勢の確保に努めます。6～8節から発生した側枝は1節摘心、それ以上から発生した側枝は2節摘心、孫枝は1節摘心を基本とします。

梅雨時期は、「黒星病」「斑点細菌病」「べと病」を重点とした薬剤を選択し予防散布に努めますが、最近、一部地域で黒星病対象薬剤の耐性菌が発生している事例がみられますので、薬剤散布の効果が見られない場合は普及センターに相談してください。

イ ピーマン

トンネル栽培では、日中はトンネル内が高温になりやすく、生育障害（葉焼け、落花等）が発生しやすいので、被覆資材を開放して換気を行います。有孔フィルムは、最低気温が17℃を超える頃を目安に除去しますが、低温が続く場合は被覆期間を延長します。

露地作型の定植時期は、地域の晩霜限界より5日程遅く設定し、定植1週間前までにマルチを張り地温を十分に上げ活着と生育促進を図ります。

整枝は主枝4本仕立てで側枝は放任とします。3本分枝は過繁茂の原因となりますので、主枝となる枝を4本残して整理するとともに、第1分枝の下部より発生したわき芽は随時かきとり、誘引後はふところ枝が過繁茂にならないように剪除します。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線などを高さ50～60cmで水平に1～2段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

（4）雨よけほうれんそうの栽培管理

寒暖の差が大きな気象条件が予想されます。換気を十分に行い、ハウス内の気温や湿度が高くなりすぎないように注意します。べと病レース7までの抵抗性を持った品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性もありますので、ハウスの換気を十分行うとともに、適用のある殺菌剤の予防散布を心がけてください。

近年、6月でも高温となることが多く、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生しています。ハウス内の温度管理には十分注意するとともに、例年土壌病害の発生が多い圃場では、土壌消毒の実施を検討しましょう。

日長が長くなり、ほうれんそうが抽台しやすい条件となりますので、抽台しにくい品種を用いることが基本になります。生育が停滞しないように、播種前の十分なかん水、温度管理を徹底するとともに、乾燥する場合は、生育中（本葉3～4枚以降）かん水も行うようにしましょう。

ハウレンソウケナガコナダニによる被害は全県的に見られています。防除対策として次の点を実践しましょう。

- 春～夏には堆肥の施用を控える。
- 農薬使用基準を遵守しつつ、薬液がムラなく十分かかるように丁寧に散布する。
- 被害の見られた株や残さは必ずハウス外に持ち出し処分する。
- 播種前に、地下5cmの地温が45℃3時間継続するように、ビニール被覆を行う。

アブラムシ類の発生が見られています。現在ハウレンソウケナガコナダニに多く使用されている薬剤はアブラムシ類に効果がないので、発生が見られたら効果のある薬剤で適切に防除しましょう。

（5）露地葉菜類の害虫防除

ア キャベツ

コナガの重点防除時期になるので、幼虫の発生を確認したら早めに防除を行いましょう。また、これから定植する作型では、必ず定植時に殺虫剤を施用しましょう。

ヨトウガについては、今後の発生予察情報に留意し、適期防除開始に努めましょう。なお、同系統の薬剤の連用とならないように注意して防除しましょう。

イ レタス

ナモグリバエの被害が多くなる時期です。特に低温で経過すると発生が継続して、生育や収量にも影響を及ぼす可能性がありますので、早めの防除を心がけましょう。防除開始の目安は右図を参照して下さい。

【防除適期の判断方法】（図参照）

最上位葉～1枚目には被害がみられないので、2～4枚目の葉における幼虫の食入痕の有無を観察する。防除適期は幼虫の食入開始初期（図の2、4葉にみられる被害程度）である。



図1 ナモグリバエ幼虫の食入程度

（6）アスパラガスの栽培管理

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が20%を切るようになった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（2期どり栽培）を行う場合には、更に早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、斑点病、茎枯病を対象とした殺菌剤を予防散布します。また、倒伏防止用のフラワーネットの利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。

（7）ねぎの栽培管理

定植後1ヶ月程度たってから土寄せ（土入れ）を開始し、その後生育状況を見て追肥、土寄せを行います。乾燥でやや生育が遅れている圃場もありますので、無理な土寄せは行わず、計画的な作業を心がけましょう。

ネギコガの発生は少ない傾向にありますが、今後の発生消長に留意し早めの防除を心がけましょう。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 花き

発行日 平成23年 5月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんどう 土壌水分管理、雑草防除を適期に行いましょう
- ◆ 小ぎく 定植、整枝などの作業を計画的に行いましょう
- ◆ トルコギキョウ 生育初期の水分・温度管理を適切に行いましょう
- ◆ 低温が予想される場合は、ハウスは夕方早めに閉め、夜間の保温に努めましょう。また、定植は低温日を避けるようにしましょう。

1 りんどう

(1) 生育概要

5月15日時点の生育は平年並みから数日の遅れとなっています。その後、気温は平年並みからやや高めに推移し、また、定期的に降雨がありますので生育は回復傾向にあります。

育苗については、一部の品種で発芽不良、発芽後の生育遅延がみられましたが、生育は概ね順調に進んでいます。しかしながら、播種時期が遅れたため、それに伴い定植時期が例年より10日から2週間程度遅れる見込みです。

(2) 圃場管理〔株仕立て、かん水、除草〕

すでに、株仕立ては終了していると思われませんが、まだのところでは早急に終わらせて下さい。5月下旬から6月は茎の伸長量が大きく、また花芽の分化の時期となります。水分を多く吸収するとともに、肥料成分も土壌水分があることで吸収されるので、降雨が少ない場合は必ずかん水を行います。ただし、高温時にかん水を行うと根に障害が発生し地上部まで影響を及ぼすことがあるので、夜間または気温の低い日を選んで行いましょう。また、圃場に数日以上の長期間水をためておくことも避けてください。

ほ場の乾燥は葉先枯れ症状の発生を助長します。発生しやすい圃場では、かん水の徹底と石灰資材の葉面散布で発生を抑えましょう。

圃場内や周辺の雑草はハダニ類やアザミウマ類の繁殖源となるので、放置することのないよう早めに処理します。畦畔の草刈りや通路の除草を早めに行いましょう。除草剤を使用する際には、飛散により、りんどうにかからないように留意し、また、登録や使用方法も確認して使用します。

(3) 施肥管理

基肥としてりんどう専用肥料を用いた場合、追肥施用時期は側芽発生期(葉の付け根に小さく腋芽が見える頃)前です。北上市付近における側芽発生期は早生種で6月上旬、晩生種で6月下旬ですので、この時期までに施用してください。葉色や葉の大きさ、草丈などで判断し、過剰にならないよう留意してください。

(4) 定植

天候を見ながら早めに計画的に作業を進めましょう。堆肥はできるだけ早く施用して碎土し、その後基肥を施用し床作り、マルチ張りを行います。また、排水不良ほ場では明きょ、排水路の設置等の対策を講じます。定植年の株養成次第でその後の生育が決まりますので、できる限り排水性等ほ場環境を整備したうえで定植して下さい。

施肥については、2年目まで肥料成分がゆっくり溶け出す緩効性肥料である「りんどう定植2年肥料」を使用した定植が行われるようになりました。基本的には2年目の施肥が不要となり、施肥作業の省力化になりますが、土壌条件等によっては、2年目の春に肥料の過不足が見られる場合がありますので、生育状況をよく観察して管理してください。

定植は苗が老化しないうちに早めに実施します。定植作業は苗の萎れを防ぐため曇天、無風時が理想的ですが、晴れた日に行う場合は、トレーが高温にならないように扱い、またトレーから取り出して根が乾燥しないように植えつけ直前にトレーから取り出すように注意します。

表 りんどう定植ほ場施肥量例 (10 a あたり)

施肥例	肥料銘柄	資材成分量	現物施肥量
施肥例 1	りんどう専用肥料	窒素 15 磷酸 16 加里 15	60~80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	30kg
施肥例 2	りんどう一本勝負	窒素 15 磷酸 10 加里 15	60~80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg
施肥例 3	りんどう定植2年肥料	窒素 15 磷酸 10 加里 10	180~150kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg~0kg

苗にジベレリン処理を行った場合は、処理後、早めに（数日以内）定植してください。また、定植後は薄めの液肥、または水をかん注し、床土と苗をなじませます。定植後は活着や初期生育を促進するため乾燥しないように管理します。

(5) 病虫害防除

ア 葉枯病

現在のところ発生は少ないですが、薬剤散布で生育初期からの予防を徹底しましょう。下葉に感染していたものが降雨により順次上位葉に拡大するので、定期的な薬剤散布による拡大防止に努めてください。

イ リンドウホソハマキ

昨年大量発生したことから今年は特に注意が必要です。防除適期は県中南部で6月上旬となっていますが今後の発生予察情報を参考にしてください。該当時期の防除の徹底とともに、潜葉痕や茎頂部の食害があるかよく観察して下さい。

ウ ハダニ類

ハダニは高温・乾燥条件で増殖しますので、今後の気象経過に留意するとともに、下位の葉裏の寄生状況を観察し、発生を見たら早めに薬剤散布を行って防除してください。増殖源となる圃場周辺の雑草防除も併せて行います。

2 小ぎく

(1) 生育概況

8月咲き品種については、概ね定植が終了していますが地域によっては苗の生育遅れと圃場準備の遅れにより若干遅れたところがあります。昨年ほど生育は遅れていないようです。

9月咲き品種の育苗はおおむね順調で、これから、本格的な定植が始まる見込みです。

(2) 定植後の管理〔かん水、整枝、土寄せ〕

8月咲品種では、草丈不足が心配されますので、初期生育を確保するために水分不足にならないよう注意し、必要に応じてかん水を行いましょ。追肥は一般には不要ですが、伸びが悪い場合、葉色が薄い場合などは少量の追肥（液肥）も効果的です。

摘心後に伸びた側枝は必ず3～4本に整理して品質確保を図ります。この時強い枝から残すのではなく、揃った枝を残すようにします。仕立て本数は品種特性に応じて変更します。

無マルチ栽培の場合は、土寄せを行い生育の促進を図ります。側枝が10cm程度伸びた頃と、整枝を行ったあとの2回が実施時期の目安です。ただし、土寄せにより開花が遅れる場合もあるので留意してください。

(3) 病虫害防除

ア 害虫

アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、ハモグリバエ類などが問題となります。発生状況の観察に努め、早期防除に努めます。併せて増殖源となる雑草防除も行います。

イ 白さび病

キク栽培で、特に重要な病害です。定期的な薬剤散布で予防します。新葉の展開に合わせて5～7日間隔で散布することが基本ですが、降雨が続く場合などは散布間隔を狭めます。薬剤の選定は各地域の防除暦等を参考にしてください。



図 小ぎくの白さび病（葉裏）

ウ ウィルス病

ミカンキイロアザミウマ等が媒介する TSWV（トマト黄化えそウイルス）の感染による「キクえそ病」が県内でも確認されていますので、疑いがある場合は普及センターに相談してください。ウイルス以外の要因で類似の症状が発生する場合もあるので、慎重に判断してください。罹病株の抜き捨て、アザミウマ類の防除を徹底し被害拡大を防止しましょう。

キクに発生するわい化病（キクわい化ウイロイド）、キクえそ病（TSWV）に感染した株は回復することがありません。圃場に残すことで他への伝染源となるので、見つけ次第抜き捨てることを徹底してください。

(4) 9月咲き品種

定植期は5月下旬～6月上旬となりますが、丈の伸びやすい品種は遅めに定植するなど品種特性に応じた定植期としてください。

3 その他

(1) トルコギキョウ

5月は種で夜冷短日育苗と定植後30日間の短日処理を組み合わせることでロゼット化や短茎開花を回避し、10～11月の出荷が可能となります。本県では8～9月出荷作型に集中する傾向があるので、新たな作型の導入を進め、有利販売を図りましょう。

夏切り作型の定植後の栽培管理は、曇天が続く場合は施設内の遮光資材や内部カーテンを開け、日射量を確保するよう管理しましょう。日照不足は品質低下や場合によってはロゼット化の原因となります。また、施設内の温度にも敏感に反応するので、適温管理に努めましょう。

(2) ユリ類

抑制作型では遮光等により施設内の温度低下を図りますが、品質低下を防ぐために日照をできるだけ確保することと、土壤水分を維持することが求められます。温度上昇を防ぐ遮光資材は、遮光率の高い資材の使用を避け日照確保に努めます。施設の換気に努め、茎の軟弱化を防ぎます。一方で天候が不順な場合は日照を確保するよう遮光資材を開放しましょう。

(3) アルストロメリア

葉芽や枯れ茎は適宜間引きますが、間引きが強すぎるとその後発生する芽が細くなるので注意します。高温期の過剰なかん水や施肥は根の障害を招くことがあるので注意します。かん水を少なくしたい品種もあるので、品種特性に応じた管理とします。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来 [~6月15日]

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第3号

果樹

発行日 平成23年 5月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri//>」

- ◆ りんごの開花は平年より遅くなりました（昨年並み）！小玉果が懸念されます、摘果作業を急ぎましょう。
- ◆ ぶどうの生育も平年より遅くなりましたが、今後の気温の推移により早まる場合もあります。計画的に開花期前後の管理を進めましょう！

りんご

1 生育概況

県内の定点観測調査結果（表1）によると、4月中旬以降の低温により生育が遅れ、開花期は平年より6日程度遅く、昨年並となりました。昨年のように小玉による反収減とならないよう、結実確認後、できるだけ早めに摘果作業を進めてください。

開花期が遅れたため、まだ結実状況は判りませんが、開花期間中の5月中旬は気温は平年並でしたが、雨が多く（図1）、また、風も強かったため、地域により結実率に差が生じる可能性があります。

また、昨年の猛暑の影響により、花芽が少ない園地が見られます。結実量を確認の上、摘果作業を進めてください。

表1 定点観測地点のふじの開花状況

市町村	地区	開花始(月/日)			満開期(月/日)			落花期(月/日)		開花期の平年・前年差(±日)			
		本年(H23)	平年	前年(H22)	本年(H23)	平年	前年(H22)	平年	前年(H22)	開花始		満開期	
										平年差	前年差	平年差	前年差
岩手町	一方井	5/17	5/11	5/18	5/20	5/14	5/20	5/19	5/23	6	-1	6	0
盛岡市	三ツ割	5/14	5/8	5/15	5/17	5/12	5/18	5/16	5/23	6	-1	5	-1
紫波町	長岡	5/12	5/7	5/11	5/15	5/11	5/17	5/15	5/22	5	1	4	-2
花巻市	中根子	5/12	5/7	5/11	5/17	5/10	5/16	5/14	5/21	5	1	7	1
北上市	立花	5/12	5/6	5/11	5/16	5/10	5/16	5/14	5/19	6	1	6	0
奥州市	前沢区稲置	5/8	5/3	5/7	5/11	5/6	5/12	5/11	5/18	5	1	5	-1
	江刺区伊手	5/14	5/8	5/15	5/17	5/13	5/18	5/17	5/22	6	-1	4	-1
一関市	花泉町金沢	5/10	5/6	5/10	5/13	5/9	5/16	5/14	5/21	4	0	4	-3
	大東町大原	5/11	5/7	5/13	5/15	5/11	5/17	5/16	5/21	4	-2	4	-2
陸前高田市	米崎	5/8	5/4	5/11	5/12	5/10	5/17	5/14	5/21	4	-3	2	-5
宮古市	崎山	5/9	5/7	5/15	5/13	5/12	5/18	5/17	5/25	2	-6	1	-5
岩泉町	乙茂	5/10	5/7	5/13	5/14	5/12	5/17	5/17	5/23	3	-3	2	-3
洋野町	大野	5/16	5/12	5/18	5/18	5/16	5/20	5/21	5/25	4	-2	2	-2
二戸市	釜沢	5/14	5/8	5/11	5/19	5/12	5/17	5/16	5/21	6	3	7	2
県平均(参考)		5/11	5/7	5/12	5/15	5/11	5/17	5/15	5/21	4.7	-0.9	4.2	-1.6

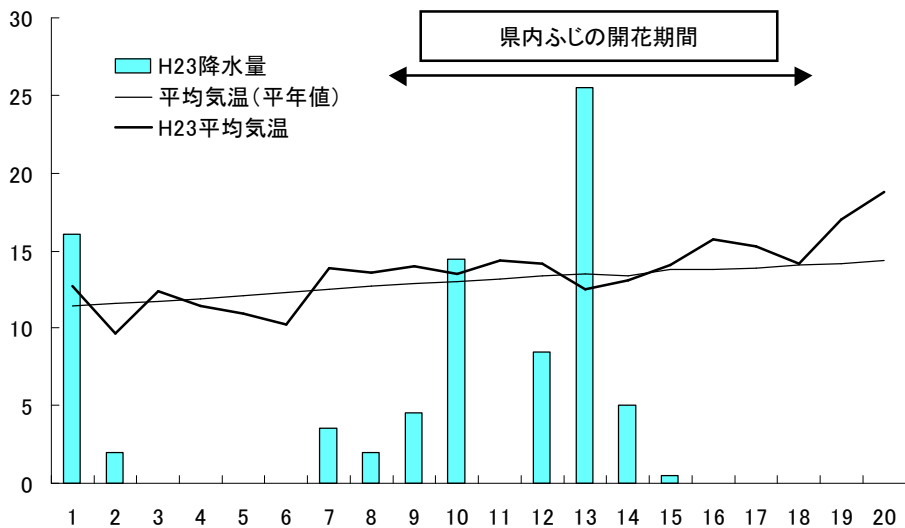


図1 開花期間(5月)における気象経過
(盛岡アメダス観測点)

2 摘果

- (1) 本年は昨年同様生育の遅れにより小玉果となる可能性があります。一方、昨年の猛暑の影響により花芽が少ない園地も見られています。そこで、花数が十分な園地では、あらかしめ摘果をできるだけ早めに行い、果実の生育を助けるとともに、翌年の花芽形成を促すことが重要です。極端に花が少ない場合は、樹勢コントロールのため腋芽果にも着果させます。各自の園地の状況、品種構成や労力等に応じた作業スケジュールをたて、計画的に摘果作業を進めましょう。

表2 摘果時期が「ふじ」の当年及び翌年の果実品質、花芽率に及ぼす影響
(長野果樹試 平12~13年)

摘果時期	当年(平12)			翌年(平13)			
	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)	花芽率(%)	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)
あら7+仕60	23.9	348	16.6	75	39.6	327	15.2
あら17+仕60	24.0	311	16.1	59	30.5	305	15.3
あら28+仕60	22.4	309	16.0	44	24.1	303	15.3
あら37+仕60	24.0	311	16.1	28	19.9	318	15.6
あら51+仕60	24.8	269	16.1	20	12.3	299	15.3
仕60	24.9	290	16.4	25	16.6	329	14.9
仕74	23.7	281	16.5	4	3.3	255	14.7
仕94	21.2	280	16.7	2	1.1	297	14.7
対照区(無摘果)	53.4	189	13.8	2	2.6	310	14.8

摘果時期: あら摘果+仕上げ摘果の満開後日数を示す。仕のみは摘果を1回で実施した。

あら摘果: 頂芽の側果およびえき芽果の全果を摘み取った。

仕上げ摘果: 葉果比50~60の基準で摘果した。

翌年(平13)の摘果: 全区ともあら摘果満開30日後、仕上げ摘果満開60日後に実施した。

- (2) 摘果の留意点

- ア 最初に、1果そう1果とするあら摘果を実施します。その際、不要な果そうの果実を積極的に除いていきます。その後、果実肥大や品質を確認しながら仕上げ摘果を進めます。
- イ 摘果終了の目安は表3の通りですが、平年より開花期が遅いことから、落花30日後は6月下旬頃になります。作業を計画的に進め、早期摘果を心がけてください。
- ウ 三角実や扁平果など、果形の悪い果実、病虫害果、傷果を中心に摘果していきます。
- エ 果実は横の発育が良く、果硬が太くて長い正形果を残します。
- オ 果台が極端に長いものや短いものは、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。

表3 品種別作業手順

項目	品 種	摘果完了時期
早期に行う品種	ふじ、つがる、王林、きおう、さんさ	落花25日後
後期に行う品種	ジョナゴールド、紅玉	落花30～35日後

3 病害虫防除

- (1) 病害虫防除所の発生現況情報（平成23年4月28日発行）によると、カメムシの越冬成虫はやや多いものの、その他の病害虫は平年並から少ない状況です。
 しかし、ハダニ類は気温の上昇とともに増える可能性がありますので、園地内を良く観察し、新梢葉で寄生葉率が30%に達したら、速やかに防除を行ってください。
 腐らん病の発生園地では、病患部を発見しだい、切除、削り取るなど処置を施します。
- (2) 斑点落葉病や褐斑病は、これから梅雨期に入り、感染が増加する時期ですので、天気予報等を参考に降雨前の予防散布に努めましょう。
 また、キンモンホソガ、モモシクイガの発生時期となります。病害虫防除所が発表する情報を参考に、適期防除に努めましょう。
- (3) 交信かく乱剤を導入する園地では、6月上旬までに剤を設置します。その際は、必ずフェロモントラップを設置して、随時交信かく乱効果を確認しましょう。

ぶどう

1 生育概況（表4）

紫波町赤沢の定点観測によると、「キャンベル」の発芽は5月9日と平年より6日遅く、展葉は5月12日と平年より2日遅くなっています。これは4月中旬以降の低温の影響によるものと思われませんが、凍霜害回避のため設置している雨よけのため、露地よりは遅れていないと考えられます。

これから開花期にかけては管理作業が重なり忙しくなります。計画的に作業を進めましょう。

表4 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(定点調査地点:紫波町)

調査年次	生態(月/日)				
	発芽期	展葉期	開花期		
			開花始	満開期	落花期
本年(H23)	5/9	5/12			
平年	5/3	5/10	6/15	6/18	6/22
前年(H22)	5/5	5/15	6/13	6/16	6/19
平年差・比	6	2			
前年差・比	4	-3			

2 管理の要点

- (1) 新梢の誘引
 展葉7～8枚頃に2回目の芽かき作業に合わせて良く伸びた新梢から誘引します。
- (2) 花穂の整理
 ア 「キャンベル」、「ノースレッド」
 開花前に弱い枝の花穂は除き、強い枝には2穂を着生させ、全体で目標着房数の1～2割増の着生数とします。
 イ 「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」
 最終房数は1新梢1房とします。摘房の時期は、新梢の強弱を判断して強勢のものほど摘房を遅らせ、着色期を目途に最終着房数とします。

(3) 花振るい防止

- ア 「キャンベル」は、強めの新梢を開花7～4日前に房先5～7枚残して摘心します。
- イ 大粒種で花振るいが強い品種や園地では、メピコートクロリド液剤（フラスター液剤）を使用することにより花振るいを軽減できます。使用する際は、登録内容を十分に確認し、使用時期や希釈倍率に注意して使用してください。

(4) 花穂の整形（図2）

- ア 「キャンベル」では、摘心作業と同時に花穂の副穂を切除し、下端を切り詰めます（尻止め）。また、主穂が長すぎる場合は上段の枝梗を1～2段切除します。
- イ 「紅伊豆」などの大粒種は、1～2輪開花し始めた頃から先端部を切りつめます。「紅伊豆」では、副穂を切除し、主穂の基部から4～6段を切除して10～13段程度を残すように整形します。
- ウ 「サニールージュ」では、開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂を除去し（長い花穂は上部支梗を1～3段除去）、花穂の長さを概ね7～8cmとします。なお、花穂の先端は切りつめません。

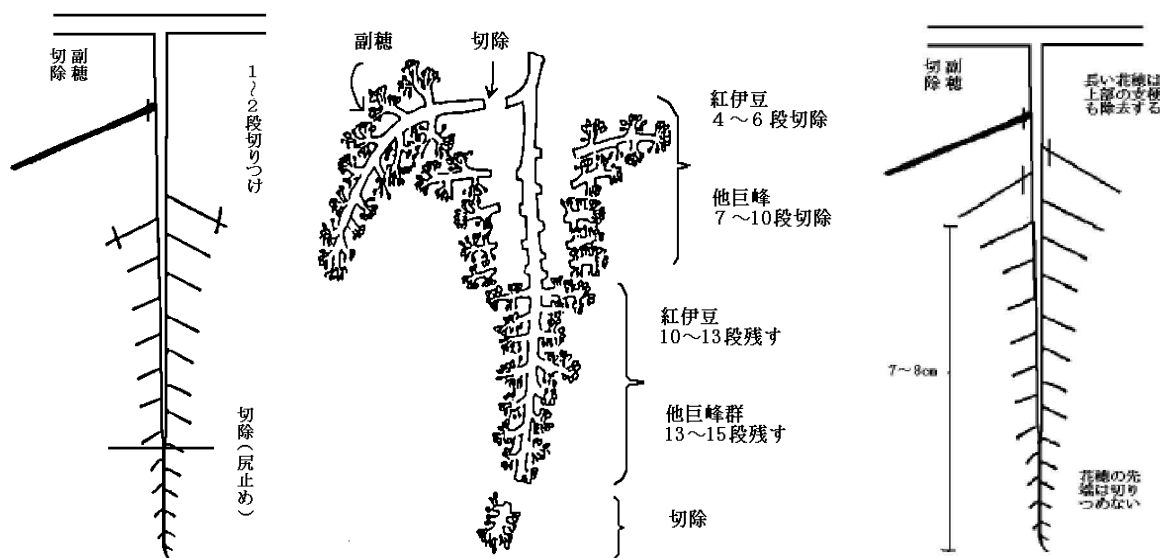


図2 花穂の整形（左：キャンベル、中：紅伊豆等大粒種、右：サニールージュ）

(5) ジベレリン処理

「デラウエア」や「アーリースチューベン」は開花前後の2回、ジベレリン処理することで、無核で果粒の肥大した早熟の果房が得られます。

「安芸クイーン」などの「巨峰系4倍体品種」や「サニールージュ」は無核化とともに果粒肥大促進を目的として利用されますが、樹勢が強く花振るいが多い場合、ジベレリン処理により着粒数を増加させることができます。

なお、ジベレリンはグループ毎に目的、使用方法が異なる場合があるので、登録内容を確認して利用ください。

3 病虫害防除

- (1) ぶどうの開花期前後は、灰色かび病の発生時期です。生育ステージに合わせて、適期防除に努めましょう。なお、灰色かび病等の薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用はしないよう注意してください。
- (2) 露地栽培で有袋栽培をする場合、防除後、薬剤が乾いたら速やかに袋かけをしましょう。

春の農作業安全月間実施中！

[4月15日]
[~6月15日]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成23年 5月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

○天候不順時はラップサイレージ調製で適期に収穫しましょう。

これから一番草の収穫時期に入ります。

天候不順により収穫作業が遅れると栄養成分の低下や倒伏が始まり収量及び品質が低下します。天気予報に留意し、乾草調製が難しい時は、ラップサイレージ調製で対応し、なるべく作業が遅れないようにしましょう。

■**牧草の放射性物質モニタリング検査結果** 牧草の利用自粛及び放牧見合わせの要請が出されていた県北西部のうち、滝沢村東部エリアを除く地域の利用自粛等の要請が解除となり、牧草の利用が可能となっています。

■**牧草** 増収を期待した遅刈りは栄養価が低下し、刈取り後の生育に悪影響を及ぼします。適期刈り取りを行うとともに、調製方式に応じた水分含量となるように努めましょう。

■**飼料用トウモロコシ** 雑草の繁茂を防ぐために、生育期処理は適切に除草剤を選択し、適期に行いましょう。

■**暑熱対策** 暑熱の影響を緩和する対策を今から準備しておきましょう。

1 牧草の放射性物質モニタリング検査結果

原発事故後に収穫する牧草の利用自粛や放牧の見合わせが行われていた県北西部地域の滝沢村を除く11市町村において、5月18日（水）から牧草の放射性物質の確認調査を実施したところ、滝沢村を除く全ての市町村サンプルで、乳用牛及び肥育牛に対する粗飼料の暫定許容量を下回りました。

その結果、5月20日（金）に滝沢村を除く11市町村に対する牧草の利用自粛及び放牧見合わせの要請が解除されました。

また、滝沢村においては、村内を東部、中部、西部の3つのエリアに区分し5月23日（月）に再調査を行ったところ、滝沢村中部、西部エリアで暫定許容値を下回りました。

その結果、滝沢村東部エリア（5月11日の調査で暫定許容値を上回った）を除く全ての地域に対して、牧草の利用自粛及び放牧見合わせの要請が解除されました。

○滝沢村東部エリアへの対応

再生草を隔週3回連続で暫定許容値を下回ること、利用自粛等要請の解除とする。

次のURL（岩手県ホームページ）をご覧ください。<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=32466>

2 牧草

(1) 生育状況

今年は消雪が遅かったことから肥料散布作業が遅れました。生育は若干遅れていますが、オーチャー

ドグラスの出穂は平年並に始まっており、1番草の刈り取り作業を開始した圃場もみられます。

(2) 1番草の収穫適期

図は、オーチャードグラスの1番草の収量と栄養価の推移を示したものです。

1番草は生育が進むにつれ草丈が高くなり、収量と繊維含量が増加します。反対に、出穂始め以降、消化率、可消化養分総量(TDN)、蛋白質含量(CP)が急速に減少します。

1番草の収穫は収量を確保しつつ栄養価が高い時期、すなわち『出穂始めから出穂期』に行うことが適切です。

今年は4月中の生育が遅れたため、草丈がやや低い状態で出穂する圃場が多いと思いますが、収穫適期は同じです。刈り遅れないようにしましょう。

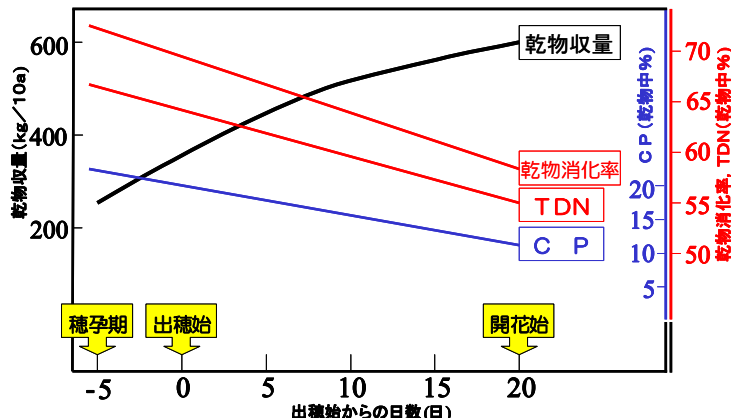


図 1番草収量・栄養価の時的推移(オーチャードグラス)

(3) 刈取り高さ

牧草の刈取り高さは、再生力の強弱を決定する重要な要因です。

牧草は極端な低刈りでは、生長点が切除されるほか、同化作用を担う緑葉が刈り取られるとともに、貯蔵器官の一部が取り去られ貯蔵養分総量が少なくなるため、再生が悪くなります。

一方、極端な高刈りの場合は収量が減少します。したがって、牧草の刈取り高さは、牧草の再生力と収量確保の両面を考慮して、地際から10cm程度が適当です。

(4) サイレージの調製

ア 原料草を予乾して適切な水分含量にして調製するのが基本です。予乾せずにサイレージを作ると、排汁により養分が失われます。また、不良発酵(酪酸発酵)の原因にもなります。このため、予乾によりロールベールサイレージは水分を50~60%に、タワーサイロやバンカーサイロ等では水分を65~70%に調整しましょう。

イ 土砂の混入は不良発酵の原因となりますので、作業スピードを落とし圃場の凹凸に注意しながら収穫作業をしましょう。

ウ ロールベールサイレージに調製する場合、ロール成形後ラッピングまで時間が大幅に経過すると品質は大きく低下します。ロール成形後は直ちにラップし、必ず成形当日にラップ作業を行うようにしましょう(表1)。

表1 密封遅延時間とラップサイレージの品質

試験区	水分 (%)	pH	有機酸組成(%, FM)				VBN/TN	乾物密度 (kg/m ³)
			乳酸	酢酸	プロピオン酸	酪酸		
梱包直後	55.8	4.8	1.26	0.10	0.09	-	5.2	148
1時間	56.5	5.0	1.08	0.09	0.10	-	5.2	112
2時間	63.8	4.5	1.64	0.11	0.06	-	6.0	128
12時間	59.6	5.0	1.82	0.12	0.06	-	7.5	134
24時間	63.2	6.1	0.91	0.10	0.08	0.12	13.7	126

1)原料草はイタリアン、エンバク(40%)混播

2)5月2日調製(フィルム2回巻、4層)、6月20日開封

3)VBN/TN:全窒素中の揮発性窒素化合物の割合(草地試1991)

(5) 乾草の調製

中途半端な水分(30~40%)での梱包はカビの発生を増長し、品質低下を招きます。また、発熱しやすく、自然発火・くん炭化の原因となりますので、2~3日快晴が続くと予想される期間に刈り取りましょう。予乾が早く進み水分含量が20%以下になると、収穫した牧草の呼吸が止まるため、糖、タン

パク質、アミノ酸の損失が少なくなり、栄養価の高い乾草ができます。

(6) 刈取り後の追肥

2番草の生育を促すため、刈取り後直ちに追肥を行いましょ。施肥量の目安は、10a当たり成分量で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです。

3 飼料用トウモロコシ

(1) 雑草防除

雑草の繁茂を防ぐには、早期の発見と防除が不可欠です。土壌処理でうまく除草が出来なかった場合は生育期処理を行います。除草剤によって、効果がある雑草が異なります。圃場の雑草を確認のうえ除草剤を選びましょ。散布時期は2~6葉期ですが、除草剤毎に違うので使用する除草剤の使用方法を必ず確認下さい。

4 暑熱の影響の緩和（乳用牛）

昨年の猛暑の影響により、秋以降の受胎が多く、今年の7月から8月に分娩する個体が平年よりもやや多いことが想定されます。また、震災後しばらくの間は、給与飼料の制限が続き、免疫力が回復しきっていない場合も想像されます。

本格的な暑さは、7月以降ですが、暑熱の影響を緩和する対策を今から準備しておきましょ。

(1) 換気・送風

泌乳量の多い牛の呼吸数が増加し始めたら、本格的な対策が必要となります。今のうちに、換気扇やダクト送風の設置位置の変更や増設を実施しておきましょ。

(2) 輻射熱の遮断・遮光

牛舎屋根裏への断熱材の取り付けや牛舎屋根への石灰資材の塗布、寒冷紗等による西日等の遮光を行います。

(3) 水

水の十分な貯留方法（配管を太くするなど）とウォーターカップの増設、水槽の増設を検討します。水槽をこまめに清掃することも、飲水量確保のための大切な作業です。

(4) 乾乳牛

これから乾乳する牛は夏に分娩します。乾乳期の飼料摂取量は、分娩後の飼料摂取量に大きく影響し、分娩後の代謝障害を予防するために乾乳期にも十分採食させることが重要です。できれば腹囲が「リンゴ形」になるよう、飼養環境にも配慮し十分に飼料を給与して下さい。



写真：腹囲形状のモニタリング例

春の農作業安全月間実施中！

[4月15日]
[~6月15日]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。